



平成30年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年3月22日

上場会社名 日本オラクル株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4716 URL <http://www.oracle.com/jp/corporate/investor-relations/index.html>

代表者 (役職名) 代表執行役 (氏名) 金子 忠浩  
 チーフリーガルオフィサー 法務室長

問合せ先責任者 (役職名) 執行役 副社長 最高財務責任者(CFO) (氏名) 野坂 茂 (TEL) 03-6834-6666

四半期報告書提出予定日 平成30年4月13日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年5月期第3四半期の業績(平成29年6月1日～平成30年2月28日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年5月期第3四半期	131,716	6.9	39,225	4.9	39,164	5.0	27,028	4.7
29年5月期第3四半期	123,240	1.0	37,377	2.5	37,292	2.1	25,813	5.9
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年5月期第3四半期	211.57		211.14					
29年5月期第3四半期	202.42		202.03					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年5月期第3四半期	196,729	119,573	60.6	932.82
29年5月期	198,731	105,783	52.9	824.79

(参考) 自己資本 30年5月期第3四半期 119,295百万円 29年5月期 105,221百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年5月期	-	0.00	-	114.00	114.00
30年5月期	-	0.00	-	-	-
30年5月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 次期の配当金は未定です。

3. 平成30年5月期の業績予想(平成29年6月1日～平成30年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	1株当たり 当期純利益
	%	円 銭
通期	1.0 ～4.0	287.00 ～297.00

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 平成30年5月期の業績予想については、レンジ形式により開示しております。

3. 予想実効税率は31.0%です。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年5月期3Q	127,990,471株	29年5月期	127,728,671株
② 期末自己株式数	30年5月期3Q	104,302株	29年5月期	154,522株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年5月期3Q	127,749,599株	29年5月期3Q	127,526,569株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想の利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P4.「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	7
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### ① 業績の概要

当第3四半期累計期間（自 平成29年6月1日 至 平成30年2月28日。以下、「当四半期」）においては、日本国内の経済環境は、米国をはじめとする海外の政策動向や地政学リスクに留意する必要があるものの、金融政策、経済政策により、引き続き緩やかな改善基調にあります。

また社会、企業活動においては生産年齢人口の減少、グローバル対応、新規事業の開拓などの課題に対し、デジタル技術を活用し問題解決に取り組んでいくことが重要となっております。当社の属する国内の情報サービス産業におきましても、システム更新需要の他、モバイル対応、IoT等デジタルデータを活用した業務効率化、エンドユーザーとの接点強化など企業成長、競争力強化を目的とするIT投資が堅調に推移しております。

このような事業環境のもと、柔軟なIT投資と迅速なシステム構築を実現するクラウドサービスへのニーズが高まっており、当社は、クラウドサービス、データを活用し、顧客企業のイノベーションの実現、成長を支援するベストパートナーになることを目指し、クラウドの導入アプローチである「Journey to the Cloud」の推進、顧客企業の経営課題に対し、海外のIT活用事例とともに最適なソリューションを提案する「エンタープライズ営業の強化」、企業活力の源泉となる「社員エンゲージメントの強化」を経営方針として事業を推進しております。

以上の結果、当四半期の経営成績につきましては、売上高131,716百万円（前年同期比6.9%増）、営業利益39,225百万円（前年同期比4.9%増）、経常利益39,164百万円（前年同期比5.0%増）、四半期純利益27,028百万円（前年同期比4.7%増）となりました。

#### ② 報告セグメント別の状況

[クラウドおよびソフトウェア（\*）]

(\*）当第1四半期会計期間より、従来の「新規ライセンスおよびクラウド(SaaS/PaaS/IaaS)と「アップデート&プロダクト・サポート」を統合し、「クラウドおよびソフトウェア」セグメントに変更いたしました。

売上高は104,059百万円（前年同期比7.6%増）となりました。内訳につきましては、クラウド(SaaS/PaaS/IaaS)の売上高は8,968百万円（前年同期比42.2%増）、新規ライセンスの売上高は30,423百万円（前年同期比5.6%増）、アップデート&プロダクト・サポートの売上高は64,666百万円（前年同期比5.0%増）、となりました。

当セグメントは企業等のIT基盤に利用される、データベース管理ソフトウェア、各種ミドルウェア、ERP等の業務アプリケーションソフトウェアの新規ライセンスを販売する「新規ライセンス」とライセンスを利用されているお客様に更新版等のアップデートや技術サポートを提供する「アップデート&プロダクト・サポート」、これらのソフトウェアやハードウェアのリソースを、インターネットを通じてサービス提供する「クラウド(SaaS/PaaS/IaaS)」から構成されます。

当社の新規ライセンス製品は、長年、高度なセキュリティ、可用性と高速処理性能が求められるミッションクリティカル領域で広く採用されております。

新たな事業の柱として注力しているオラクルクラウドは、この新規ライセンスと同じ設計思想、同じ技術で構築しており、新規ライセンス製品で構築したオンプレミス(\*)システムとオラクルクラウドとの連携、双方向の移行を可能としていることを、当社の強みとしております。

(注1) SaaS (Software as a Service) : 財務会計や給与・人事管理などのソフトウェアの必要な機能を必要な分だけ、インターネットを経由して提供するサービス。

(注2) PaaS (Platform as a Service) : ITシステムを構築、稼働させるための基盤となるデータベース管理ソフトウェアや、異なるソフトウェア間を円滑に連携させる中間層のソフトウェアを、インターネットを経由して提供するサービス。

(注3) IaaS (Infrastructure as a Service) : ITシステムを構築、稼働させるための基盤（サーバーマシンやストレージなどのハードウェアやネットワークなど）そのものを、インターネットを経由して提供するサービス。

(注4) オンプレミス : ITシステムを自社所有で構築・運用する形態。

### ＜クラウド (SaaS/PaaS/IaaS) ＞

SaaSについては、引き続き競争力強化、効率化を目的としたグローバルの間接購買や統合会計ソリューションを提供するERP・EPMクラウドの需要が増加しております。当社の強みである現行システムとのシームレスな連携や、クラウドならではの早期導入とPaaSによる機能拡張が可能であることが評価され、第2四半期においては、海外拠点向けのERPクラウドを受注した他、既存システムをクラウド上に移行し、ERPクラウドとの連携を行う刷新案件を受注いたしました。

また第3四半期においても、クラウドサービスのメリットの1つであるソリューション毎の短期導入が容易なことから、基幹となる会計のほか、予算管理、購買、生産管理ソリューションを幅広いお客様から受注し、堅調に推移しております。

機械学習によりカスタマーセンター業務の効率化やエンド・カスタマーの購買体験の向上などに貢献するService Cloudについては、幅広い業種の企業様からお問い合わせ頂き、堅調に推移しております。

また新しい分野では、日本の地球温暖化対策計画を達成するための環境省の取り組みに対し、公益業界向けクラウドサービス「Opower Energy Efficiency Cloud Service」が採用されました。日本全国5つの主要エネルギー事業者が管轄する地域の約30万世帯に向け、行動科学に基づいた省エネレポートを各家庭向けに提供し、自発的な省エネ行動を促す実証実験を支援しております。

PaaS/IaaSについては、お客様の新規システムの開発・検証用途で採用される他、製造業のIoTソリューション向けに、デバイス・システム連携やデータ処理を支援するPaaS製品や、お客様のデータセンター内にオラクルのクラウド環境を設置し、パブリックIaaSおよびPaaSを提供する「Oracle Cloud at Customer」への引き合いが増加しております。

また第2四半期より、クラウド利用を促進するためのプログラムとして、お客様が既にお持ちのオラクル・ソフトウェアライセンスを「Oracle PaaS」に持ち込むことを可能とする「Bring Your Own License (BYOL)」と、シンプルな契約を1つ結ぶだけで、「Oracle PaaS」、「Oracle IaaS」のあらゆるサービスを利用することができる「Universal Credits」の販売を開始いたしました。クラウドサービスの購入方法や利用形態が柔軟になるということで、幅広いお客様にPaaS/IaaSをご利用いただいております。

### ＜新規ライセンス＞

主力製品である「Oracle Database 12c」は、マルチテナント機能を活用することで、データベースの運用基盤の統合を可能とし、保守運用作業を軽減するとともに、将来のスムーズなクラウド移行を可能とします。

データ量増加に伴うシステム対応やITシステム基盤統合への需要が引き続き堅調であり、第1四半期では金融、公共分野で、第2四半期では製造、金融、公共分野で、第3四半期では、製造、流通、通信公益分野で、ITシステムの運用効率化を図る一方、セキュリティ強化、ITシステムによる競争力強化・顧客接点強化を戦略として推進されているお客様から大型案件を受注いたしました。

### ＜アップデート&プロダクト・サポート＞

導入製品や利用環境に応じたプロアクティブ（事前対処的）、かつプリベンティブ（予防的）なサポートを提供する「My Oracle Support」等、製品を利用されているお客様へのサポートの価値訴求や、パートナー企業様との協業を推進した結果、新規のサポート契約、および既存のサポート契約の更新が堅調に推移いたしました。

### [ハードウェア・システムズ]

売上高は12,538百万円（前年同期比5.4%減）となりました。

内訳につきましては、ハードウェア・システムズ・プロダクトの売上高は4,850百万円（前年同期比13.7%減）、ハードウェア・システムズ・サポートの売上高は7,687百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

当セグメントは、サーバー、ストレージ、エンジニアド・システム、ネットワーク機器等のハードウェアの販売およびそれらのオペレーティングシステム（OS）や関連ソフトウェアを提供する「ハードウェア・システムズ・プロダクト」、ハードウェア製品の技術サポート、修理、メンテナンスの提供およびOS等関連ソフトウェアの更新版等の提供を行う「ハードウェア・システムズ・サポート」から構成されます。

## [サービス]

売上高は15,117百万円（前年同期比14.0%増）となりました。

当セグメントは、当社製品の導入支援を行う「コンサルティング・サービス」、予防保守サービスやお客様のIT環境の包括的な運用管理サービスを提供する「アドバンストカスタマーサポートサービス」、技術者や利用者向けの研修事業や技術資格の認定事業を提供する「エデュケーション・サービス」から構成されております。コンサルティング・サービスでは、クラウド導入プロジェクトが順調に増加しており、またエデュケーション・サービスでは、クラウドアプリケーション開発向けのJavaへの研修需要が増加しております。

## &lt;報告セグメント別売上高の状況&gt;

区分	平成29年5月期 第3四半期		平成30年5月期 第3四半期			平成29年5月期	
	金額	構成比	金額	構成比	対前年 同期比	金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
クラウド(SaaS/PaaS/IaaS)	6,306	5.1	8,968	6.8	42.2	9,159	5.3
新規ライセンス	28,804	23.4	30,423	23.1	5.6	43,386	25.1
アップデート&プロダクト・サポート	61,608	50.0	64,666	49.1	5.0	82,727	47.8
クラウドおよびソフトウェア	96,719	78.5	104,059	79.0	7.6	135,273	78.1
ハードウェア・システムズ・プロダクト	5,618	4.6	4,850	3.7	△13.7	9,375	5.4
ハードウェア・システムズ・サポート	7,635	6.2	7,687	5.8	0.7	10,176	5.9
ハードウェア・システムズ	13,253	10.8	12,538	9.5	△5.4	19,551	11.3
サービス	13,266	10.8	15,117	11.5	14.0	18,365	10.6
合計	123,240	100.0	131,716	100.0	6.9	173,190	100.0

(注) 金額は単位未満を切り捨て、構成比ならびに対前年同期比は単位未満を四捨五入で表示しております。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は196,729百万円(前事業年度末比2,002百万円減)となりました。流動資産は155,619百万円(前事業年度末比2,001百万円減)となりました。

負債は77,155百万円(前事業年度末比15,793百万円減)、純資産は119,573百万円(前事業年度末比13,790百万円増)となりました。この結果、自己資本比率は60.6%(前事業年度末比 7.7ポイントアップ)となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月26日に発表いたしました平成30年5月期の業績予想より変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	43,025	131,502
売掛金	19,629	19,185
短期貸付金	90,300	—
その他	4,668	4,970
貸倒引当金	△2	△39
流動資産合計	157,621	155,619
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	11,384	10,824
土地	26,057	26,057
その他（純額）	2,648	3,196
有形固定資産合計	40,089	40,078
無形固定資産	6	2
投資その他の資産		
その他	1,014	1,028
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	1,014	1,028
固定資産合計	41,110	41,109
資産合計	198,731	196,729
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	12,028	11,329
未払金	5,109	4,374
未払法人税等	8,274	4,639
前受金	62,594	51,121
賞与引当金	2,035	1,475
その他の引当金	442	293
その他	2,454	3,912
流動負債合計	92,940	77,147
固定負債		
その他	7	7
固定負債合計	7	7
負債合計	92,948	77,155
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	23,755	24,411
資本剰余金	7,106	7,761
利益剰余金	75,258	87,727
自己株式	△898	△605
株主資本合計	105,221	119,295
新株予約権	561	278
純資産合計	105,783	119,573
負債純資産合計	198,731	196,729

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)
売上高	123,240	131,716
売上原価	62,237	69,102
売上総利益	61,002	62,613
販売費及び一般管理費	23,625	23,388
営業利益	37,377	39,225
営業外収益		
受取利息	8	12
その他	9	19
営業外収益合計	17	32
営業外費用		
為替差損	84	89
その他	17	3
営業外費用合計	102	93
経常利益	37,292	39,164
特別利益		
新株予約権戻入益	165	102
特別利益合計	165	102
税引前四半期純利益	37,458	39,267
法人税等	11,644	12,238
四半期純利益	25,813	27,028



## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

## I 前第3四半期累計期間(自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	クラウド および ソフトウェア	ハードウェア ・システムズ	サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	96,719	13,253	13,266	123,240	—	123,240
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	96,719	13,253	13,266	123,240	—	123,240
セグメント利益	36,491	619	3,417	40,528	△3,151	37,377

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,151百万円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期累計期間(自 平成29年6月1日 至 平成30年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	クラウド および ソフトウェア	ハードウェア ・システムズ	サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	104,059	12,538	15,117	131,716	—	131,716
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	104,059	12,538	15,117	131,716	—	131,716
セグメント利益	38,280	568	3,759	42,608	△3,383	39,225

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,383百万円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、従来の「新規ライセンスおよびクラウド(SaaS/PaaS/IaaS)」と「アップデート&プロダクト・サポート」を統合し、「クラウドおよびソフトウェア」セグメントに変更しております。これは、当該旧セグメント間の相互関連性や補完性が強くなり、これらのサービス提供が一体となって当社の事業を支えるようになってきていること、当社の事業展開、経営資源の配分、経営管理体制の実態等の観点から報告セグメントについて再考した結果であります。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法および名称により作成したものを記載しております。

## 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。